

【様式4の2】

受験番号兼申請番号	医・歯・技
-----------	-------

(この上の欄には記入しないで下さい)

西暦 20XX年X月XX日

症例番号	
------	--

- 1) 医療機関 : ○○睡眠クリニック
- 2) カルテ番号 : ○○○○
- 3) 年齢 : (初診時) 54 歳
- 4) 性別 : 女性
- 5) 職業 : 主婦
- 6) 主訴・主症状 : 下肢のむずむず感
- 7) 診断 : むすむす脚症候群 (レストレスレッグス症候群 : restless legs syndrome : RLS)
※睡眠障害国際分類 第2版 (ICSD-2) ならび American Academy of Sleep Medicine (AASM) の
診断・RLS 国際基準・重症度判定基準に従って診断
- 8) 既往歴 : 特記事項なし
- 9) 家族歴 : 特記事項なし
- 10) 現病歴 : 5年くらい前より、就床直前に不快感とともに下肢を動かそうとする強い衝動を覚え、寝付けなくなることが度々あった。夕方じっとしていると足の裏が火照り、ふくらはぎを虫が這う様な感覚に襲われることもあった。下肢を叩いたり、動かすと症状は和らいだ。ここ2週間は症状が連日現われ、寝つきが増悪した。インターネットで当院を知り、20○○年○月○日に受診となった。
- 11) 心身の一般的所見 :
身長 : 156.0 cm、体重 : 53.0 kg、Body Mass Index : 21.8 kg/m²、血圧 : 109/72 mmHg
神経学的所見・精神医学的所見 : なし、国際RLS重症度スコア点 (IRLS) : 33/40 点、
ピッツバーグ睡眠質問表 (PSQI) : 15/21 点
日本語版エプワース眠気尺度 (JESS) : 11/24 点
- 12) 臨床検査所見 ;
呼吸機能検査 : 特記すべき異常なし
心電図 : 特記すべき異常なし
生化学的検査 : 血清鉄 : 112 ug/dl (基準範囲 : 48~170 ug/dl)、
血清フェリチン : 59 ng/ml (基準範囲 : 5~152 ng/ml) と正常であった。
- 13) 睡眠ポリグラフ検査 (PSG) の成績 :
※施行日 : ○年○月○日 [図1、表1]
※検査は監視下で行った。
※AASMによる睡眠および随伴イベントの判定マニュアル Ver. 2.0 に基づく視察判定。
・ 睡眠構築 : 総記録時間 : 354.0 分、総睡眠時間 : 261.5 分、入眠潜時 : 70.0 分、

睡眠効率 は 73.9 % であった。また各睡眠段階の割合は、Stage N1 : 25.0 %、Stage N2 : 68.1 %、Stage N3 : 0.0 %、Stage R : 6.9 % であった。

- 睡眠時呼吸障害；無呼吸-低呼吸指数（apnea hypopnea index : AHI）は 3.1 回/hr、うち無呼吸指数 0.0 回/hr、低呼吸指数 3.1 回/hr であった。
- 心電図；特記すべき異常なし
- 下肢筋電図；睡眠時周期性四肢運動指数：18.4 回/hr、睡眠時周期性四肢運動に伴う覚醒指数：7.3 回/hr。睡眠時の覚醒反応を伴う周期性四肢運動を認めた〔図3〕。また、入眠前の覚醒時には周期的な下肢の運動や、脚を擦る、脚を叩く、脚をこすり合わせるといった行為が認められた〔図2〕。

14) 鑑別診断；

睡眠障害国際分類 第2版（ICSD-2）および国際 RLS 研究グループによる診断基準4項目（1. 足への不快感・動かしたくなる衝動、2. 動かすと症状が和らぐ、3. 安静座位・臥位で増悪、4. 夕方・夜間に症状が強い）の全て症状を満たし、むずむず脚症候群と診断した。後に、プラミペキソール投与にて軽快したことも診断を補完する。国際 RLS 重症度スコア 33 点であり、最重症であった。基礎疾患（リウマチ、腎不全、妊娠等）は無く、血清フェリチン値は正常であった。また、原因となる薬物（抗うつ薬、抗ヒスタミン薬、ドパミン阻害薬）の内服もしていないことから、特発性のむずむず脚症候群（RLS）と考えられる。精神薬の使用は無く、アカシジアは否定される。又、夜間こむら返りとは臨床像が違う。

15) 治療方法；生活指導（飲酒、カフェイン、ニコチンの制限、寝る前の下肢マッサージ、適度な運動、規則的な就床起床）、薬物療法（塩酸プラミペキソール）

16) 治療効果・経過予後；

○年○月○日よりプラミペキソール 0.125 mg の服用を開始した。薬の服用 3 日後には症状が著明に改善した。1 週間後の再診で、国際 RLS 重症度スコアが 33 点から 9 点になっていることを確認した。薬剤の処方と共に、生活指導を行った。現在もプラミペキソールを継続投与し、経過観察中である。薬の副作用である悪心、突発性睡眠などは今のところ確認していない。

* この模範例を引用・申請した場合は不合格となる。

* 症例報告書の内容や書き方は認定事業実施に関する規約・細則に準ずること。

* 書式（フォント、文字サイズ、行間など）は読みやすく、統一が図られていること。

* 図は鮮明であること。

* 睡眠ポリグラフの図にはスケールを入れること。

【様式4の3】

症例番号	3
------	---

上記の症例に関する診療あるいは検査および報告書作成を指導したことを確認します。

西暦 20XX年 X月 XX日 学会認定医、学会認定歯科医、学会認定検査技師
(学会認定証の番号: 000)

所属診療科の長(該当する事項を○印で囲って下さい)

医療機関と診療料名および職名 ○○睡眠クリニック 院長
氏名 印

審査員のコメント

審査結果: 合格、保留、不合格

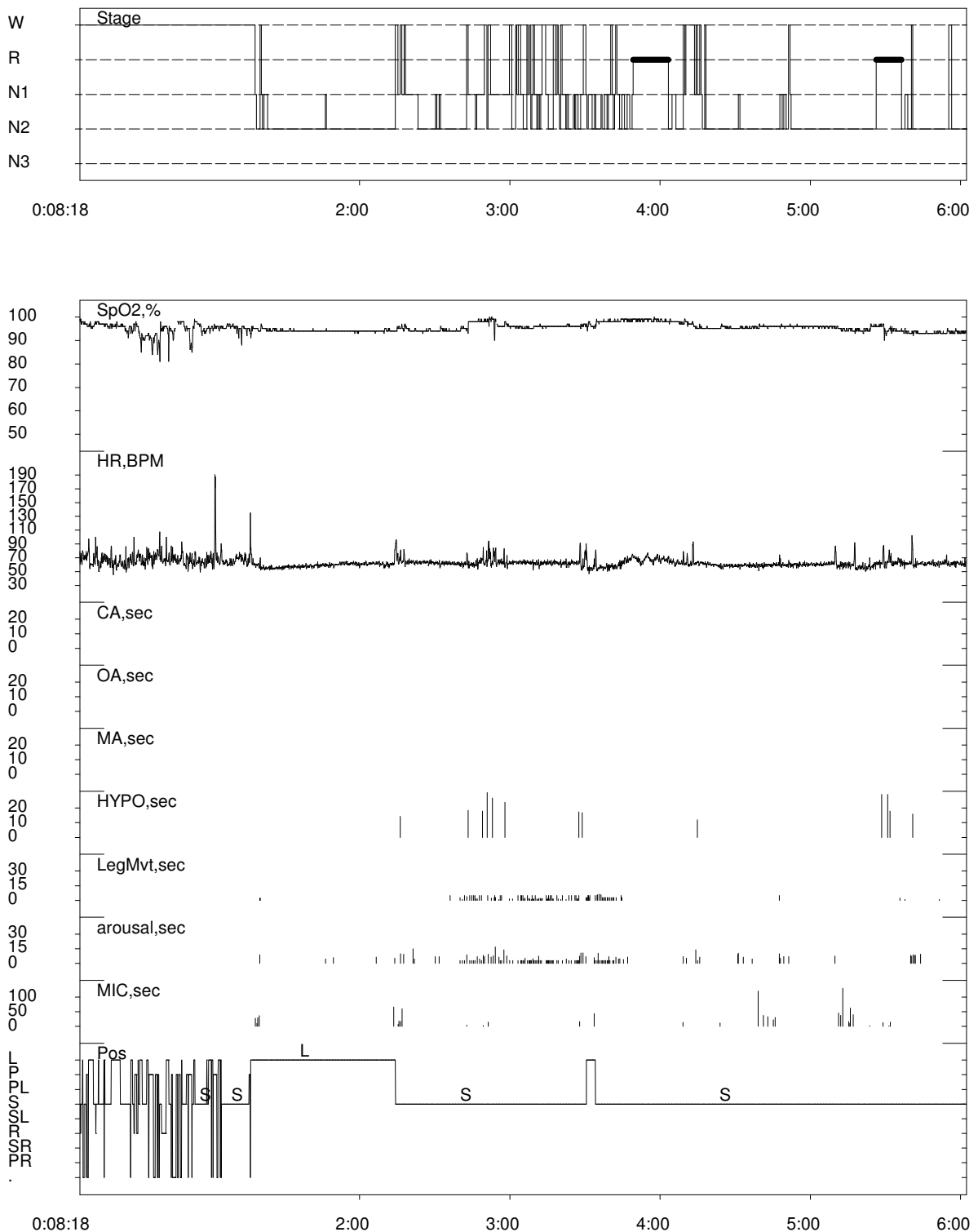
担当審査員の氏名

【様式4の4】

症例番号

(図、表は下の枠内に貼付け、各図・表にタイトル、説明文をつけること)

図1 診断PSGの睡眠経過図(ヒプノグラム)



[図中略語の意味]

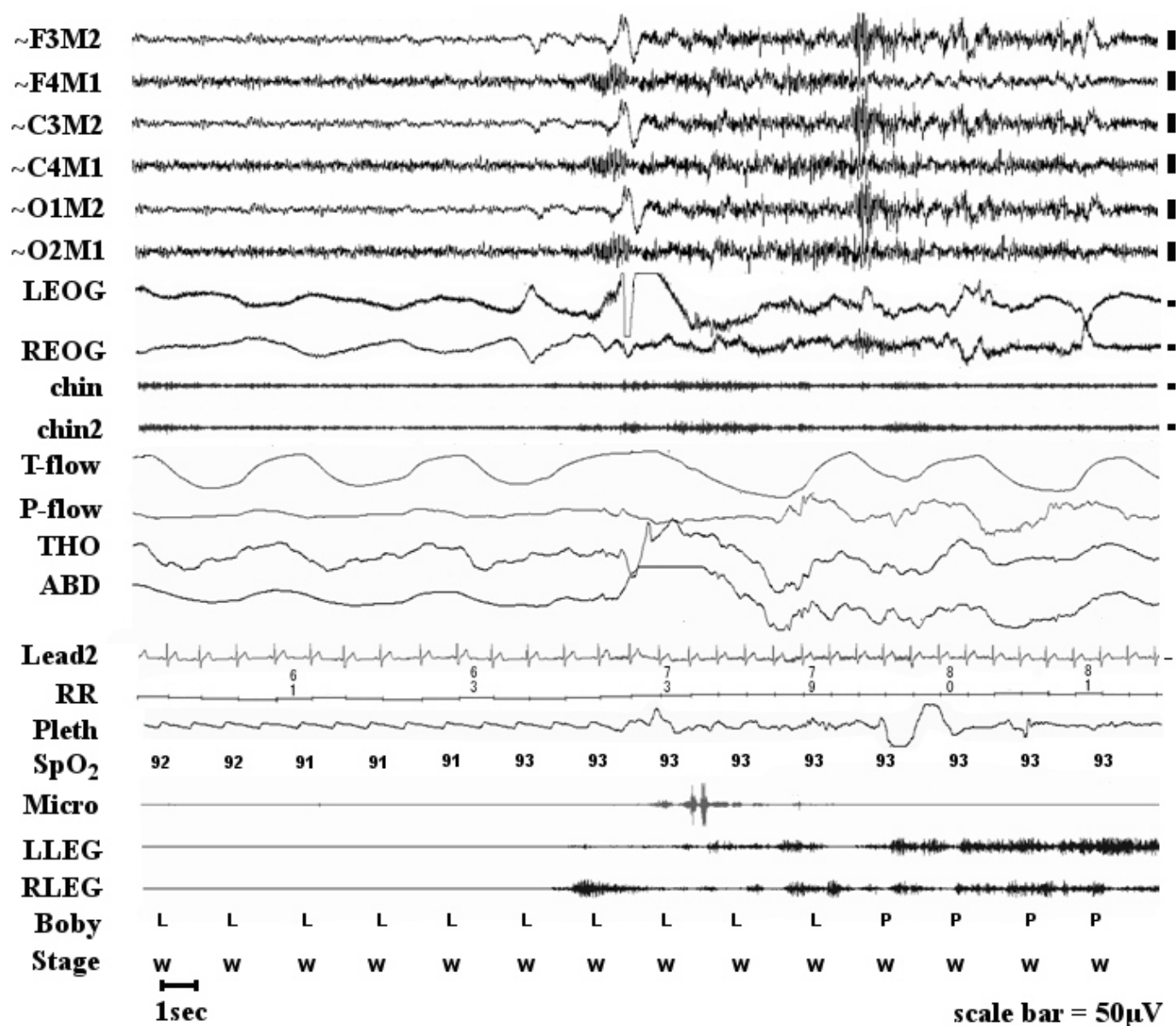
Stage : 睡眠段階 SpO₂ : 動脈血酸素飽和度 HR : 心拍数 CA : 中枢性無呼吸 OA : 閉塞性無呼吸 MA : 混合性無呼吸
 HYPO : 低呼吸 LegMvt : 脚動 arousal : 覚醒反応 MIC : イビキ Pos : 体位 (L : 左向き、P : うつ伏せ、S : 仰向け、R : 右向き)

【様式4の4】

症例番号	0
------	---

(図、表は下の枠内に貼付け、各図・表にタイトル、説明文をつけること)

図2. 30秒のPSG記録



『覚醒時の脚の不快感の為の運動』

入眠前の覚醒時に頻繁に上肢、下肢の動きが見られた。

PSG中のビデオモニターでは、ベッドから起き上がり、脚を揉んだり、叩いたりする様子があった。

〔 図中略語の意味 〕

F3M2・F4M1・C3M2・C4M1・O1M2・O2M1：脳波 LEOG・REOG：眼電図 chin・chin2：頤筋筋電図

T-flow：サーミスタ波形 P-flow：鼻圧波形 THO：胸部呼吸努力

ABD：腹部呼吸努力 Lead2：心電図 RR：心電図RR間隔 Pleth：脈波

SpO₂：動脈血酸素飽和度 Micro：イビキ

LLEG・RLEG：前脛骨筋筋電図 Body：体位 Stage：睡眠段階

【様式4の4】

症例番号 0

(図、表は下の枠内に貼付け、各図・表にタイトル、説明文をつけること)

表1. 診断 PSG より算出された睡眠変数

項目		診断 PSG
睡眠の状態	総記録時間 (TRT)	354.0 分
	総睡眠時間 (TST)	261.5 分
	入眠潜時 (SL)	70.0 分
	StageR 潜時 (StageR latency)	147 分
	入眠後覚醒 (WASO)	22.1 分
	睡眠効率 (TST/TRT) ×100	73.9 %
	StageN1	65.4 分 (25.0 %) ※ ¹
	StageN2	178.1 分 (68.1 %) ※ ¹
	StageN3	0.0 分 (0.0 %) ※ ¹
	StageR	18.0 分 (6.9 %) ※ ¹
	覚醒反応指数 (arousal index)	26.1 回/h
	無呼吸・低呼吸による覚醒指数	3.1 回/h
	呼吸の状態	無呼吸指数 (apnea index: AI)
低呼吸指数 (hypopnea index: HI)		3.1 回/h
無呼吸低呼吸指数 (apnea hypopnea index: AHI)		3.1 回/h
動脈血酸素飽和度の平均値		95 %
動脈血酸素飽和度の最低値		92 %
その他	不整脈の回数	なし
	睡眠時周期性下肢運動指数 (PLMSI)	18.4 回/h
	周期性下肢運動関連覚醒 (PLMSArI)	7.3 回/h

〔 図中略語の意味 〕

TRT : total recording time TST : total sleep time SL : sleep latency

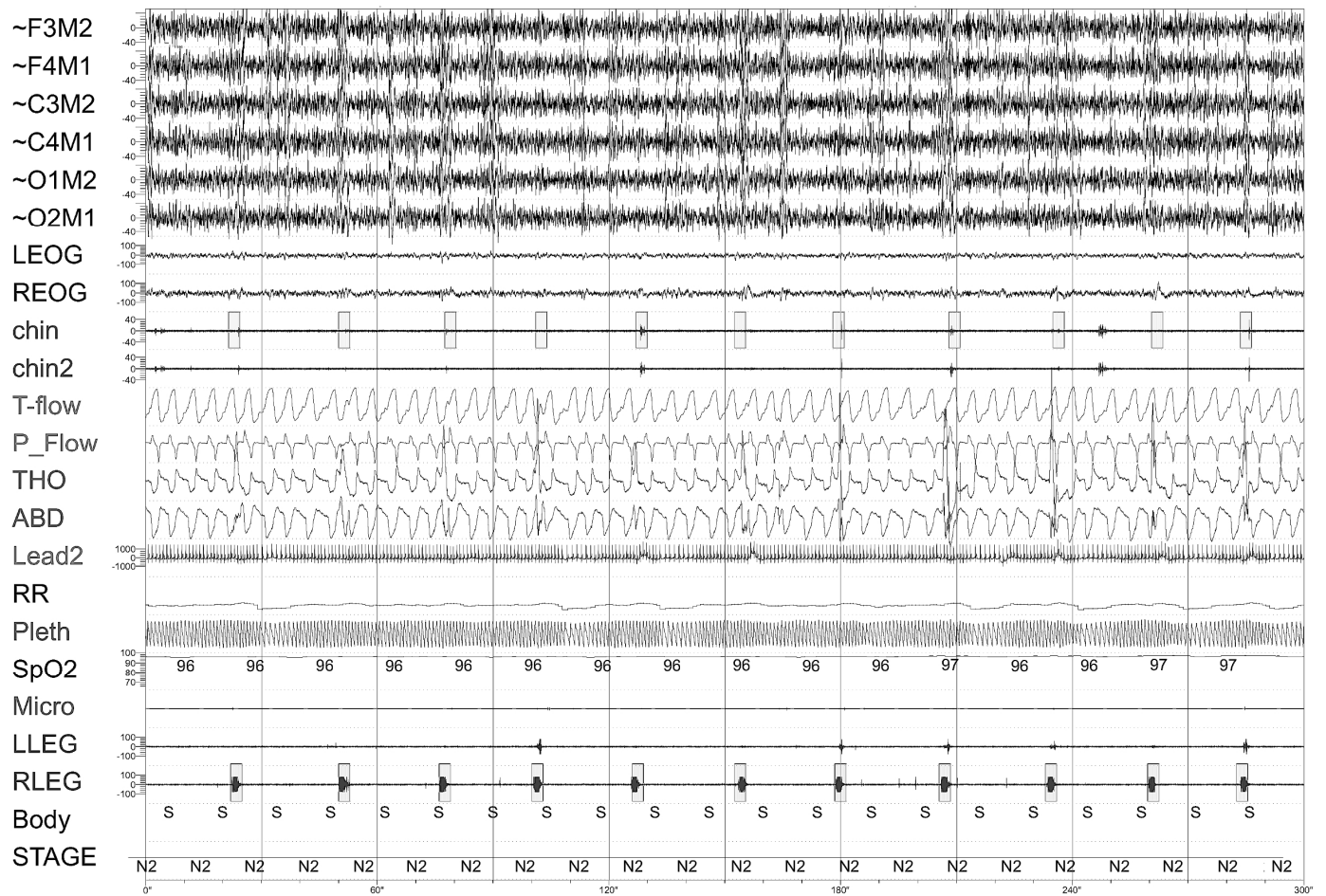
WASO : wake time after sleep onset PLMS : periodic limb movements in sleep

PLMSArL : periodic limb movements in sleep arousal index

※¹ は %TST (total sleep time)

(図、表は下の枠内に貼付け、各図・表にタイトル、説明文をつけること)

図3. 5分間のPSG記録



『睡眠時の覚醒反応を伴う周期性四肢運動』

睡眠中に覚醒反応を伴う周期的な下肢の動きを確認した。

ビデオモニターでも足首の屈曲を確認できた。

[図中略語の意味]

F3M2・F4M1・C3M2・C4M1・O1M2・O2M1：脳波 LEOG・REOG：眼電図 chin・chin2：頤筋筋電図

T-Flow：サーミスタ波形 P-Flow：鼻圧波形 THO：胸部呼吸努力

ABD：腹部呼吸努力 Lead2：心電図 RR：心電図 RR 間隔 Pleth：脈波

SpO₂：動脈血酸素飽和度 Micro：イビキ

LLEG・RLEG：前脛骨筋筋電図 Body：体位 STAGE：睡眠段階